

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 10

トビイロウンカ（秋ウンカ）の飛来状況について

本年は、トビイロウンカの飛来時期が平年より早くなりましたが、箱施薬剤の徹底等により発生量は少なくなっています。

トビイロウンカは、田植え時期や箱施薬剤の種類、ほ場条件等により発生状況に大きな差がありますので、ほ場の発生状況を把握し、適期防除に努めてください。

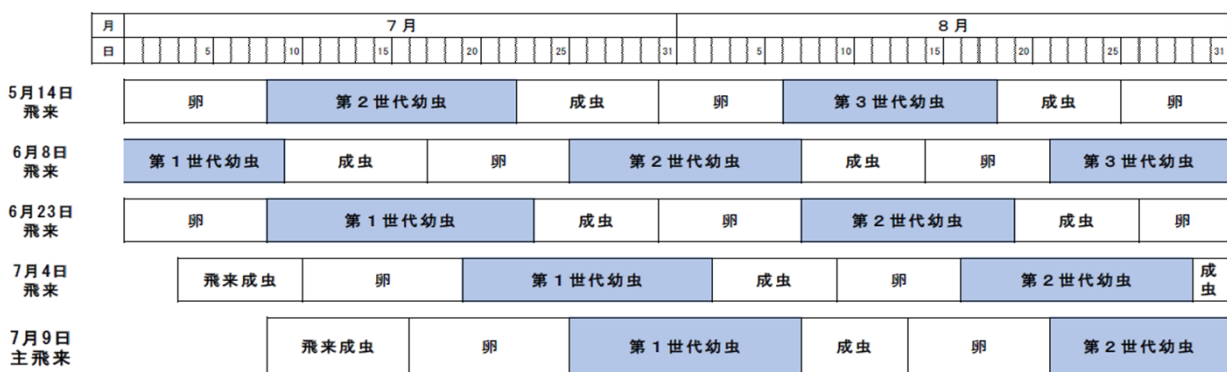
〈防除上、注意すべき事項〉

【要防除水準】 トビイロウンカ：幼虫の合計数

- ・ 飛来後第 1 世代(8 月上旬) : 20 頭/100 株以上
- ・ 飛来後第 2 世代(8 月中旬～下旬) : 100 頭/100 株以上

- ・ 本年は複数回の飛来が確認されています。ほ場の発生状況を確認し、早植え水稻は出穂期防除、普通期水稻は 8 月下旬の基幹防除を徹底しましょう。発生パターン図を参考に、効果の高い幼虫の時期に防除を行いましょう。
- ・ 出穂後は薬剤が株元まで到達しにくくなるため、防除は湛水状態で、薬剤が株元まで確実に届くよう丁寧に散布し、散布後に防除効果を必ず確認しましょう。
- ・ アプロード剤は残効が長い特徴がありますが、近年、防除効果の低下も見られますので、必ず他のウンカ用薬剤と混用して使用しましょう。
- ・ 降雨のため、粉剤及び液剤の散布が難しい場合は、粒剤の使用も検討しましょう。
- ・ 薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。

(参考資料)



(注) (1) 発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)
(2) 気温はアメダス太宰府を使用(7月27日まで実測値、以降は平年値)。

図 1 飛来に基づくトビイロウンカの発生予想パターン図(第2報:令和3年7月28日作成)